上田で「東信州採用戦略会議」

地域企業の採用担当者が情報交換

就活のオンライン化やインターンシップテーマに

東信地域を中心とした自治体で構成する東信州次世代産業振興協議会はこのほど、地域企業の採用担当者による「東信州採用戦略会議」を、信州大学繊維学部内のＡＲＥＣを会場に、オンライン参加も含めて開いた。

東信州採用戦略会議

現在、企業の人手不足が大きな課題になっている。同会議は、企業の採用担当者が互いの工夫を語り、悩みに対して効果的な取り組みを参考にしてもらおうと開いている。新型コロナの影響で就活のオンライン化が進むなど、企業の採用で大きな変化が起きている状況で、今回は学生が職業体験する「インターンシップ」をテーマにした。

会場参加は上田市、千曲市、坂城町、立科町、御代田町など県内事業所と、学生を参加させる側で県外の大学、オンラインでは上田市、小諸市、佐久市、千曲市の13事業所や県内外の大学が参加した。

各社からインターンシップの取り組みの説明があり、事業所を訪れるリアルな方式は多くの企業で行っていた。オンラインによるインターンシップは積極的に取り組んだり、リアルと組み合わせる企業がある一方で、オンラインは体験が狙い通りにはできなかったり、説明会として行っていたり、模索中で取り組んでいないなどが目立った。

オンラインで苦慮している企業からは、説明が中心になってしまい、インターンシップの感覚が出せず、画面越しの限界を感じるとした話しがあった。

直接の回答ではないものの、学生から社内の雰囲気を知りたい要望に対して採用担当者だけでなく、一般従業員を準備なしで登場させて本音を言ってもらうことや、若手社員と座談会を行ったり、スマホでリアルタイムに社内を巡り、クイズを出題するなどの話しがあった。プログラミングを体験させている企業からは、専属の講師がついて対応するという工夫も出た。オンラインの利点として、遠方の学生も参加することができ、一定の効果があるとした企業もあった。

オンラインに苦慮していた企業からは、限界を感じていたがさまざまに工夫できることがある―という感想や、オンラインに取り組んでいなかった企業からは、会社を知ってもらう機会として活用できる―などの声もあった。